

今週の話題：

<世界のインフルエンザ-2003年10月1日-2004年9月30日>

2003年10月から2004年9月にかけて、インフルエンザの流行は低度から中程度であった。北アメリカと西ヨーロッパにおいて集団発生は早期に発生し、過去3シーズンより重度であった。10月にインフルエンザの流行が増加し、東へ移動する前の11-12月にはピークに達した。アジアと東ヨーロッパでは、2003年12月と翌年1月にピークに達した。

インフルエンザ A(H3N2)型ウイルスがほとんどの国で優勢となり、インフルエンザ流行の原因ウイルスとなった。

2004年の1月1日から9月28日までにタイとベトナム¹で計42例(30例の死亡例を含む)のA(H5N1)型のヒトにおける症例が報告された。2003年12月に香港特別区²でA(H9N2)型のヒトにおける症例が1例報告された。2004年3月にブリティッシュコロンビア(カナダ)³で鳥インフルエンザ A(H7N3)型に関連したヒトにおけるA(H7N3)型の2症例が報告された。

世界のインフルエンザ流行の範囲とそれらの型を表1に要約する。

79の国と地域よりインフルエンザウイルスの検出が報告された。31の国と地域よりA(H1N1)型、A(H1N2)型、A(H3N2)型あるいはB型に関連する集団発生が報告された。フィリピンとウクライナでA(H1)型、英国でA(H1N1)型、アイスランドでA(H1N2)型による集団発生が報告された。南北アメリカ、アジア、ヨーロッパ、そしてオセアニアでA(H3N2)型ウイルスに関連した集団発生が報告された。

ブラジルでインフルエンザB型の集団発生が報告された。

参照：¹http://www.who.int/csr/disease/avian_influenza/country/cases_table_2004_09_28/en/

²http://www.who.int/csr/don/2003_12_10/en/、³http://www.who.int/csr/don/2004_04_05/en/

表1：ウイルス分離またはウイルスの直接的な検出により確定された世界のインフルエンザ流行の範囲と型、2003年10月-2004年9月(WER参照)

<第5回予防接種安全運営委員会>

WHO 予防接種安全運営委員会はWHO 予防接種安全策の優先プロジェクトに戦略的な助言を提供するために1999年に設立された。

2004年7月15日、委員会の委員がWHO本部のスタッフとビデオ会議を実施した。主な目的はWHOが2003年7月の会議以降の予防接種安全策への進展をメンバーに報告すること、特にWHOの予防接種計画の安全策活動を更に強固に支えるための将来の課題に関し、委員会の助言を求めることであった。委員会は特に安全問題を高いレベルの政治的視点で追求し続けることの必要性を強調した。この目標を達成する意義は、安全問題を2005-2015年間の世界予防接種の展望と戦略に確実に含めること、世界保健総会と地域委員会での問題を強調すること、およびWHOスタッフが予防接種とワクチン安全問題を扱う国際的また国内の会議に参加しつづけることであった。

委員会は、予防接種安全目標への国の進展や進展不足のフィードバックを国の高位の政治家や予防接種関係の役員に提供するべきであるという事を強く考えた。国の予防接種安全性評価の継続が奨励された。達成した進展レベルの評価に対する再評価の重要性が強調された。

*注射の安全性、再使用防止シリンジ：

2003年に予防接種のための再使用防止(AD)シリンジの使用が大幅に増加した。自国の定期的な予防接種システムにADシリンジを導入する国の数が増え、WHO指定に合格するADシリンジを持つ製造業者やADシリンジを生産する国の数も増えた。国際標準化機関(ISO)と共同で医療用具規制国際整合化会議と企業が、注射器具に対する改善された「事前審査」システムを作成した。2005年初めに同システムが完全に使用可能になるように計画された。委員会はADシリンジ供給の持続可能性に問題のあることを提起した。地域での生産、特にアフリカにおいては、(現在この種のシリンジの生産業者がないので)持続的に供給することが重要な要因になるだろうというコメントがあった。

*ワクチン配達技術に関する研究：

新しいワクチン配達技術における現在の努力について委員会に情報が提供された。活動は、使い捨てのカートリッジ・ジェット注射器、針なし注射器のシステム、“Patch”皮膚予防接種、粘膜予防接種、ワクチン安定化の分野で継続している。WHOは最も期待できる技術の一つであると思われる使い捨てのカートリッジ・ジェット注射器に焦点を当てている。

現在認可されているはしかワクチンへの呼吸器接種に対する少なくとも1つの方法(ワクチンと接種器具)を開発・認可するという目的をもつはしかエアロゾルプロジェクトに関しても情報が提供された。

*ワクチン資金：

運営委員会の最終会議以降、ワクチン予防接種世界同盟のワクチン資金からの注射安全支援に対する申請の認可数が増加している。その時点での委員会の財政貢献は8500 USドルを超えていた。委員会はまだ申請書を提出していない国を奨励し、それらの国が自国の規制当局(NRAs)を強化するためにワクチ

ン資金から注射予防接種サービスと注射安全資金の両方の使用を考慮するよう奨励した。

委員会はまた、特にワクチン資金の支援がすぐに終了してしまう国々に対し、予防接種に対する AD シリンジ使用を長期間持続可能することの重要性を示した。これに照らして、委員会は WHO が国の長期資金計画に特に注意を払い、適切にこの地域で追加援助を提供することを奨励した。長期資金に対する国レベルの政治的な政策立案者間の提唱の必要性が強調された。委員会は一般的に安全性が予防接種プログラムの持続可能性に対する鍵になると確信した。

*** 廃棄物管理：**

委員会は廃棄物管理における最近の WHO 活動の報告を受けた。発展途上国での医療廃棄物処理に使用される低コストかつ小規模焼却炉の分析に関する報告がまとめられた。この報告書は、状況分析、小規模焼却による最良の方法の指導書、焼却による健康へのリスクに関する情報で構成されていた。政策文書もまとめられ、医療廃棄物の不適切な管理の危険性に関する情報や、戦略を立て、改訂するときのある特定の国におけるリスクや利益を評価する必要性を提供している。その文書は、この地域内の WHO 活動を方向付ける政策上の要点を述べ、短期、中期、長期の医療廃棄物管理改良戦略を述べている。

直接的な支援が講習会、国への訪問を通じて各国になされた。ニードルカッター、リサイクリング、溶解装置、針なし技術等の研究が継続されている。

委員会は、予防接種関連の廃棄物の管理に対する焼却について安全で費用効果のあり、環境にやさしい代替物への研究が持続されることを奨励した。

*** NRA 強化と監視およびワクチン投与後の障害の管理：**

NRAs 強化の支援活動は継続された。多くの国を訪問し、NRAs の評価、再評価が最初に実施された。この訪問中に、ワクチン投与後障害 (AEFI) の専門家を含む規制の専門家が、国で利用可能なワクチンが WHO の規準に準じた質であることの確認作業を支援するために特定された。再評価では、AEFI 監視システム改善の活動プランの構築、AEFI の訓練、AEFI の認識の向上に対する政策決定者の会議の実施、WHO の AEFI 資料と一致する指導と訓練資料の開発の分野で多数の国において相当な改善が見られた。

委員会は NRA 強化とワクチン AEFI 調査という状況で、国内連携のメカニズムに対する興味を表明した。委員会は、医薬品の品質と安全性に関しての報告書が 2004 年の理事会と世界保健総会の両方に提供されたことに勇気づけられた。

この進展にも関わらず、AEFI 監視システムを持つ加盟国はたった 39% しかなく、委員会はその数字に懸念を示し、WHO がその分野で努力を続けることを勧め、必要とされる活動を支援する国家政府によって資金の割り当てを主張した。

*** 医療従事者のトレーニングと改善された教育：**

WHO は、医療従事者への総合マニュアル「予防接種の実践」が完成し、2005 年の年度初めまでには英語とフランス語での配布が期待されることを報告した。ポルトガル語とスペイン語への翻訳が計画されている。予防接種の中等度のレベル管理測定規準は、国の予防接種計画管理者に向けられ、2005 年中に完成されることが期待されている。ワクチン管理の訓練も拡大され、技術訓練、ワクチン管理、ワクチン保存管理、巡回ワクチン管理の 4 つのワクチン管理コースが利用可能となった。今までのコースは全て英語だったが、今後、フランス語、ロシア語にもなる予定である。

*** コミュニケーションと提唱：**

2 つのウェブサイトが最後のミーティング後に設立された。2003 年 6 月に入ってワクチン安全生に関する世界諮問委員会 (GACVS) のウェブサイトが立ち上がった。2003 年 9 月に予防接種安全ウェブサイトが立ち上がり、ワクチンの安全性と質、安全な注射の実践、廃棄物管理と AEFI 等を紹介した。GACVS は、信頼性、内容、アクセスしやすさ、デザインの 4 分野を勧告している。ワクチン安全情報を提供している多くのサイトはこれらの基準を厳守するために評価されている。信頼性と内容の基準を満たすウェブサイトは、予防接種安全ウェブサイトとリンクされている。

*** 患者の安全：**

委員会のメンバーは、2002 年 5 月の世界保健総会の決議を受けて設立した患者安全事務局の継続的な協力を励まされ、国が患者の安全に最大の関心を払うよう促した。2004 年 5 月に世界健康議会で、予防接種安全技術の説明会が開催された。患者の安全ウェブサイトが展開され、2004 年 10 月 27 日に米国で患者安全における WHO の世界同盟が発足される。

*** 普通教育への取り組み：**

IVB 戦略顧問団の専門家は、2003 年 7 月の会議で、予防接種安全性に焦点をあてることが IVB 内で継続されることを推奨した。「普通教育への取り組み」への努力、あるいはより堅実な安全活動は、2005 年の終わりまで IVB の中心活動の中で継続されている。委員会は国と地区レベルにおいて予防接種システムの安全を全て満たすように国のニーズへのサービス提供の保証を強調した。

(上杉雅之、杉本雅晴、宇賀昭二)